

群馬県への移住に関するアンケート調査 結果報告書

令和7年3月31日



認定NPO法人ふるさと回帰支援センター
(令和6年度群馬県委託事業)

第1部

アンケート概要



1. アンケート概要

調査目的	群馬県全域を対象に、各地域への「移住者」（定住の意思をもって転入した人）が移住（転入）に至った経緯やその後の生活実態、地域の魅力や課題、移住に際して求められる支援等について把握し、その特徴を分析することで、群馬県及び県内各市町村が移住促進施策及び移住・定住支援関係施策の改善に役立てることを目的とする。
調査対象者	群馬県内全35市町村の選挙人名簿から県が無作為抽出した、満18歳以上70歳未満の個人3,990名。 ※本調査では、群馬県内の市町村に「定住の意思をもって」転入した経験のある方を「移住者」とし、県外からの転入による移住だけでなく、県内他市町村からの転入も「県内移住」として対象に含めるものとする。
調査手法	インターネット調査 ※上記調査対象者に対し、調査実施の案内を郵送。文面中のQRコードより調査フォームへアクセス。自身が「移住者」（定住の意思をもって転入した人）に該当する場合に回答を求めた。
調査地域	群馬県
最終有効サンプル数	有効回答 526 （うち県外出身者167・県内出身者359。回答総数640件から「転入していない」の回答者を除く）
実査期間	2025年2月25日～3月15日

【地域区分】 「中毛」：前橋市、伊勢崎市、玉村町、渋川市、榛東村、吉岡町
「西毛」：高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、上野村、神流町、下仁田町
「吾妻」：中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町
「利根沼田」：沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町
「東毛」：桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町



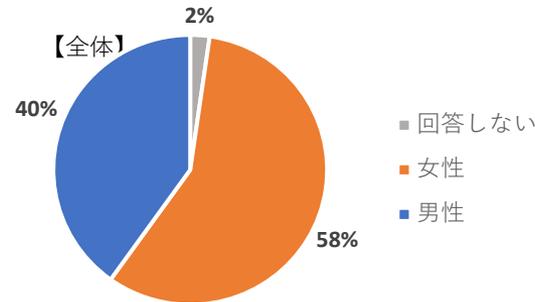
2. 回答者の属性

- 送付対象は3990件、回答総数は640件。
(うち部分回答と「転入経験がない」を除く有効回答は526。うち県外出身:167/群馬県出身:359)
- 各エリア毎でも、おおむね同程度の割合で回収することができる (回収率: 約15~20%)

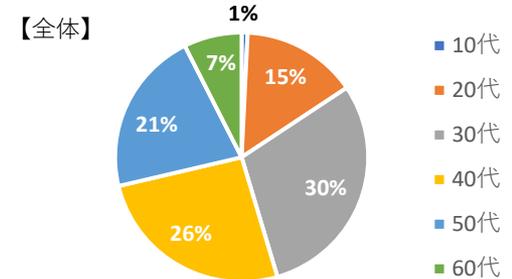
各エリア毎の回収状況 (n=640)

エリア	回答数	送付数	回収率
1_中毛 (県央)	123	710	17.32%
2_西毛	172	1100	15.64%
3_吾妻	72	360	20.00%
4_利根沼田	102	650	15.69%
5_東毛	171	1170	14.62%

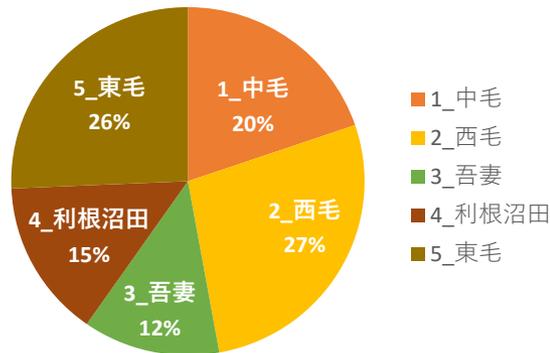
回答者の性別 (n=526)



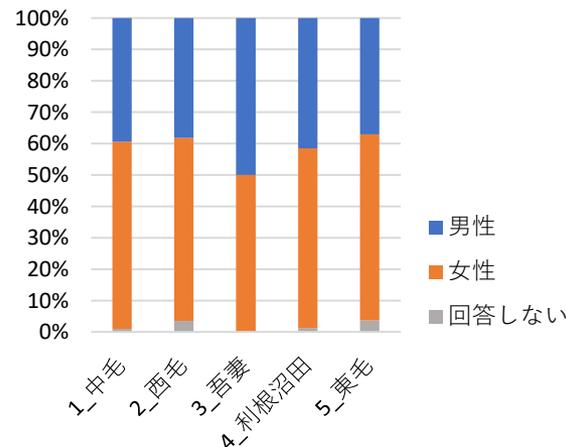
回答者の年代 (n=526)



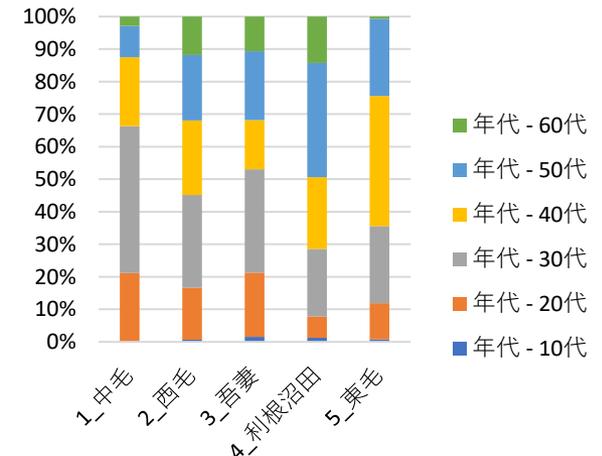
回答者の地域別割合 (n=526)



【エリア別】



【エリア別】

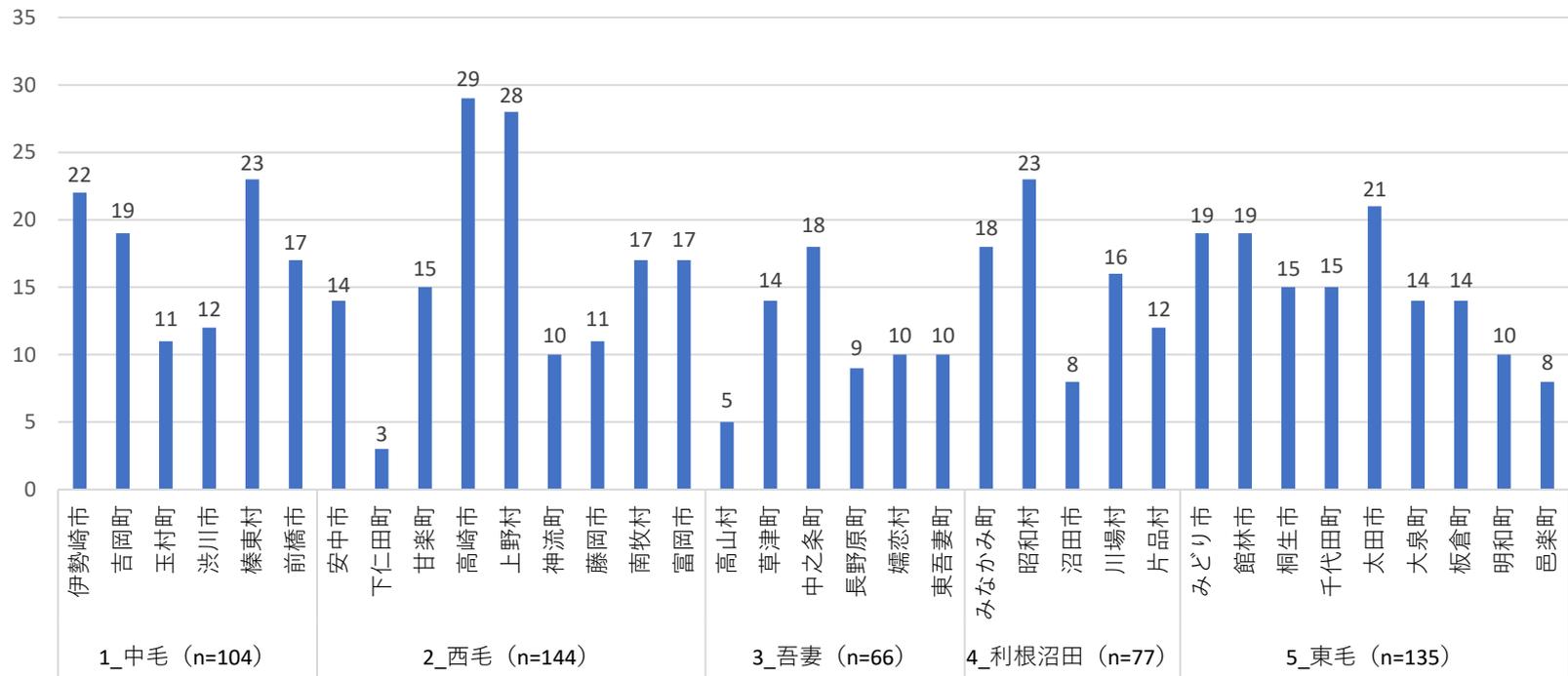




2. 回答者の属性（現在の居住地）

- 現在の居住地では、高崎市(29人)が最も多く、続いて上野村(28人)、榛東村(23人)、昭和村(23人)、伊勢崎市(22人)、太田市(21人)と続き、回答者0人の市町村はなかった。
- エリア別では西毛と東毛がやや多いが、回収率で見ると同程度。いずれも精度の高い定量分析にはサンプル数が十分ではないため、市町村単位では定量分析は行わず、エリア単位の粒度までにとどめるとともに、エリア単位の分析については、概ねの傾向（±10%程度の誤差は許容する）を示すものとして扱う。

回答者の現在の居住地（n=526）



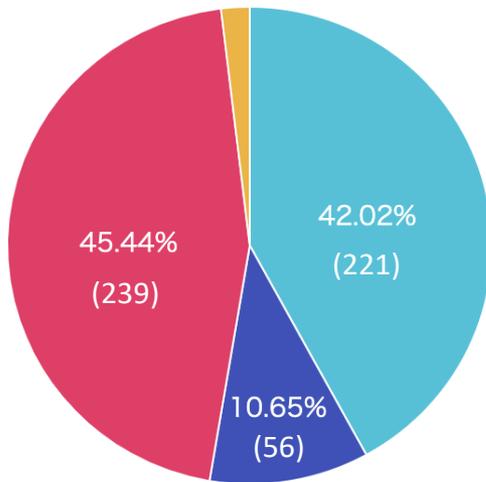


2. 回答者の属性（移住のタイプと前居住地）

■ 県外移住者と県内移住者の割合としては、「群馬県外の市町村から転入した（以降、県外移住者）」が42.02%、「群馬県外の市町村から転入したのち、県内市町村間で転居した（以降、2段階移住者）」が10.65%、「群馬県内の市町村から転入した（以降、県内移住者）」が45.44%であった。

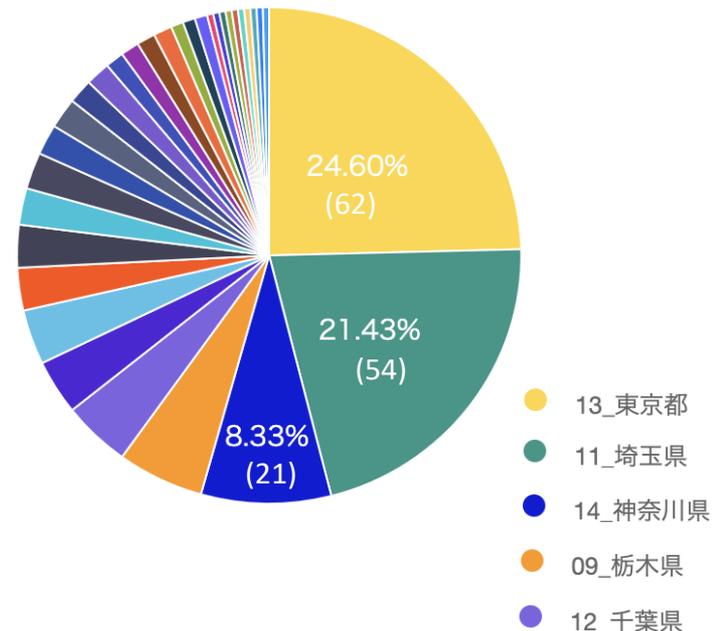
■ 群馬県への転入前の居住地は東京都（24.60%）埼玉県（21.43%）、神奈川県（8.33%）の順で多く、上位三都県で半数を超える。

移住者のタイプ（n=526）



- 群馬県外の市町村から転入した
- 群馬県外の市町村から転入したのちに、県内市町村間で転居した
- 群馬県内の市町村から転入した
- 覚えていない

群馬県への転入前居住地（n=252）



- 13_東京都
- 11_埼玉県
- 14_神奈川県
- 09_栃木県
- 12_千葉県

第2部

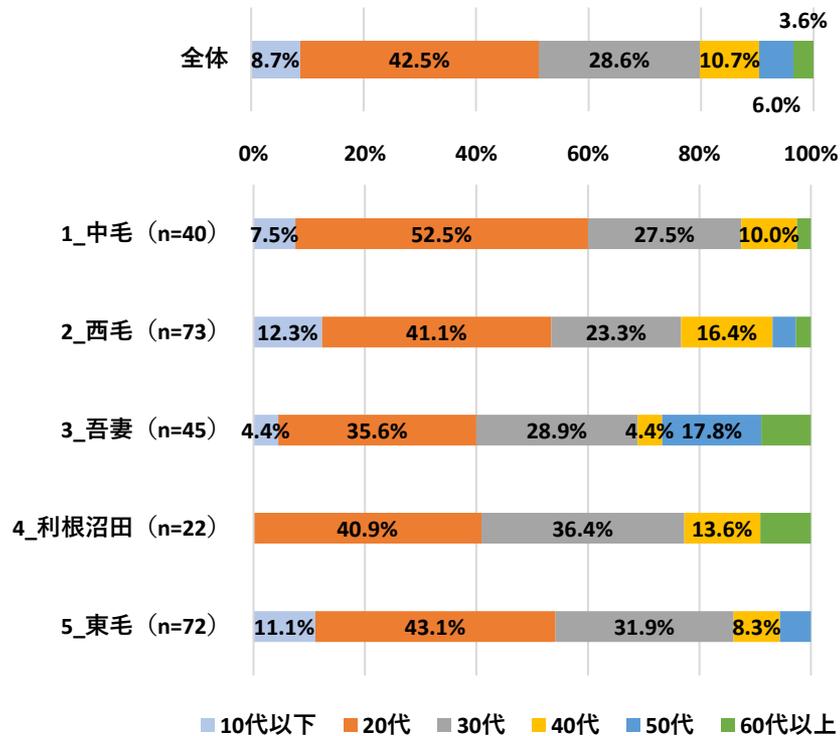
県外からの転入経験者の傾向



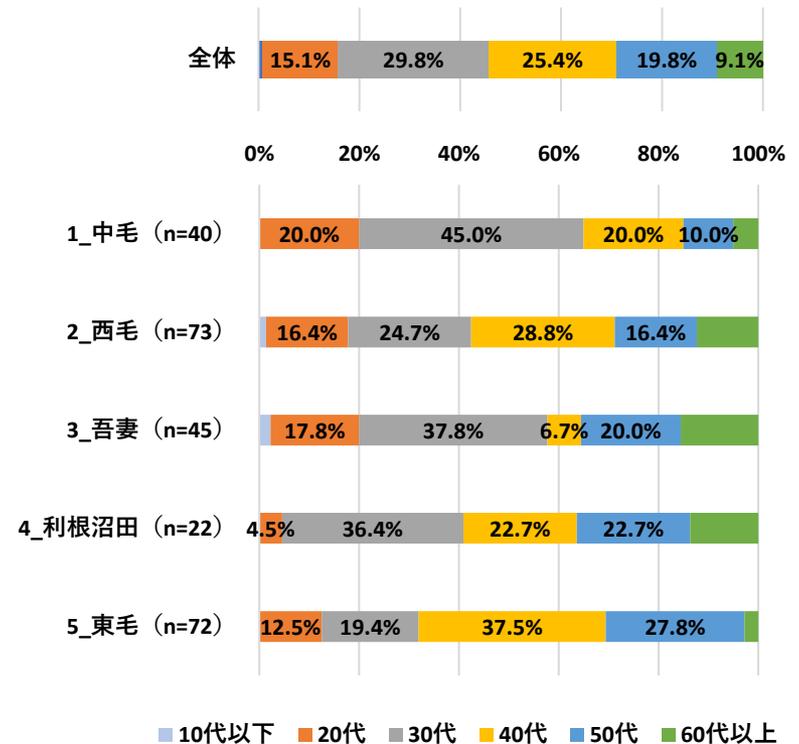
3.【県外移住者】転入時点の年齢傾向

- 転入時の年齢は20代が最も多く42.5%を占め、30代(28.6%)、40代(10.7%)と続く。
- 中毛については20代が50%を超えている点や、吾妻の50代の多さ、利根沼田は10代転入の少なさなどいくつか特徴的な傾向は見受けられるものの、エリア別の数値についてはややサンプル数が少ないため参考程度としたい。

転入時の年代 (n=252)



回答時点での年代 (n=252)

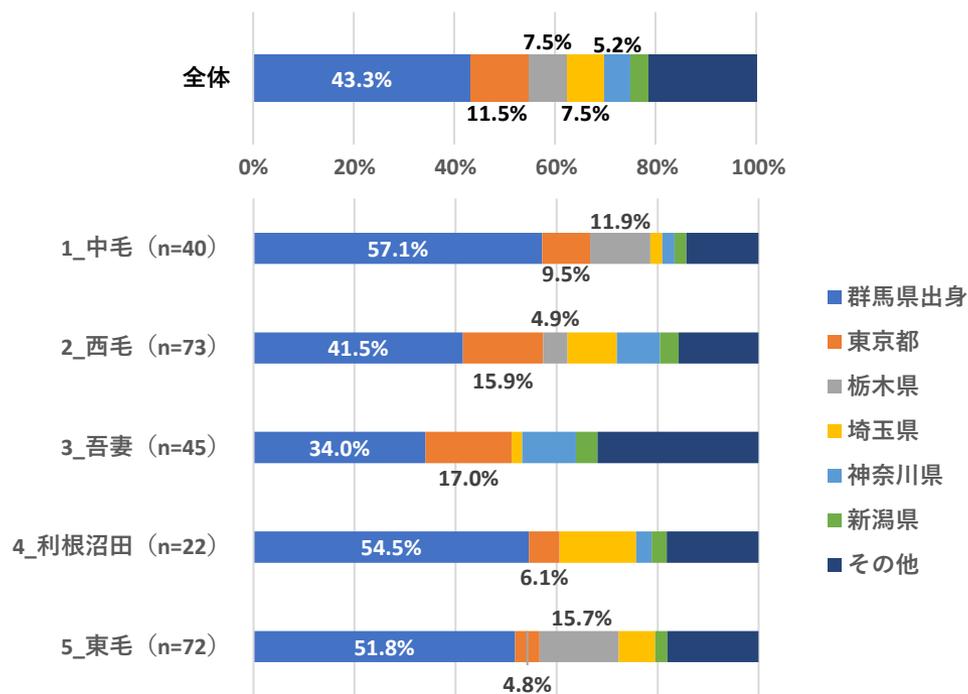




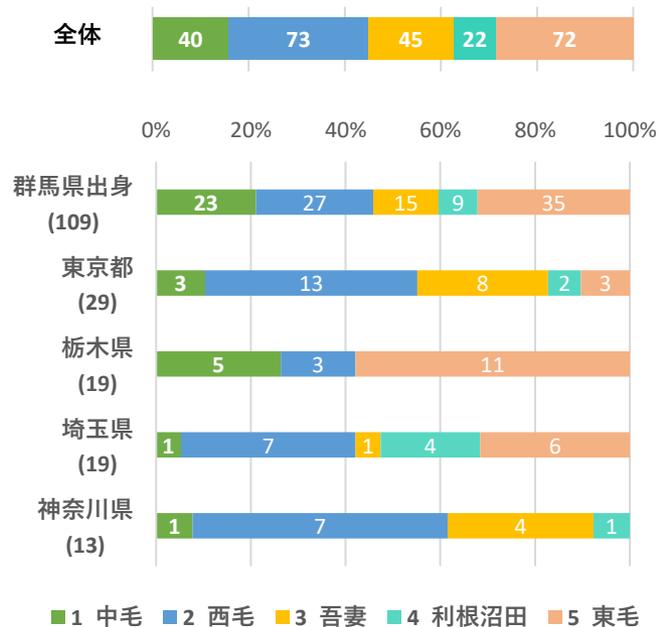
3.【県外移住者】移住者の出身地と傾向

- 群馬県出身の移住者(いわゆる、Uターン)が、県外からの移住者の4割強を占めている。一方で、県外出身者からなるIターンでは、東京都出身(11%)が最も多く、栃木県、埼玉県、神奈川県と続く。
- UターンとIターン上位4県合計がほぼ同程度のボリュームとなり、県外からの移住者の約8割を占める。
- 各エリアを見ると、サンプル数は少ないながらも、栃木出身の移住者は東毛を選択する割合が全体よりは高く、東京出身者や神奈川県出身者は西毛や吾妻を選択する割合が高いように見受けられる。また東京、埼玉、神奈川ともに中毛を選択している割合は全体から見ると低い傾向などが推察される。

県外移住者における出身地の割合 (n=252)



移住者の出身地からみる居住地の傾向 (n=252)

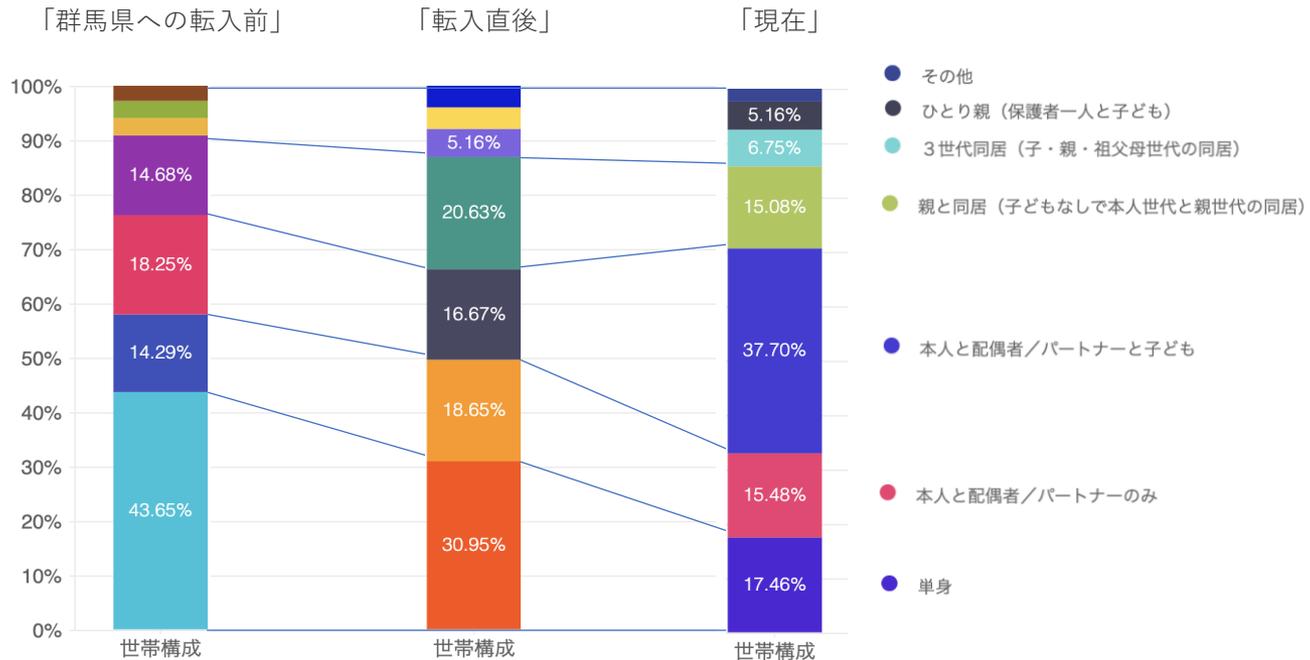




3.【県外移住者】転入前後の世帯構成の変化

- 転入前は単身者が43.65%で最も多く、本人と配偶者／パートナーと子ども世帯（18.25%）、親と同居（14.68%）、本人と配偶者／パートナー（14.29%）がつづく。
- 転入直後は、実家に戻る群が多く（後述の住まいの変化からもみて取れる）、親と同居（20.63%）が増える傾向。一方で移住後一定期間の間に親との同居を解消する群も少なくないと思われる。
- また、本人と配偶者／パートナーも若干増えており結婚や同棲等と移住タイミングが重なる移住者も一定数いることが推察できる。
- 全体傾向ではあるが、一貫して単身世帯は減少している。また、子供のいる世帯割合が2割程度は増えていることも傾向としては見受けられる。

世帯構成の変化（n=252）

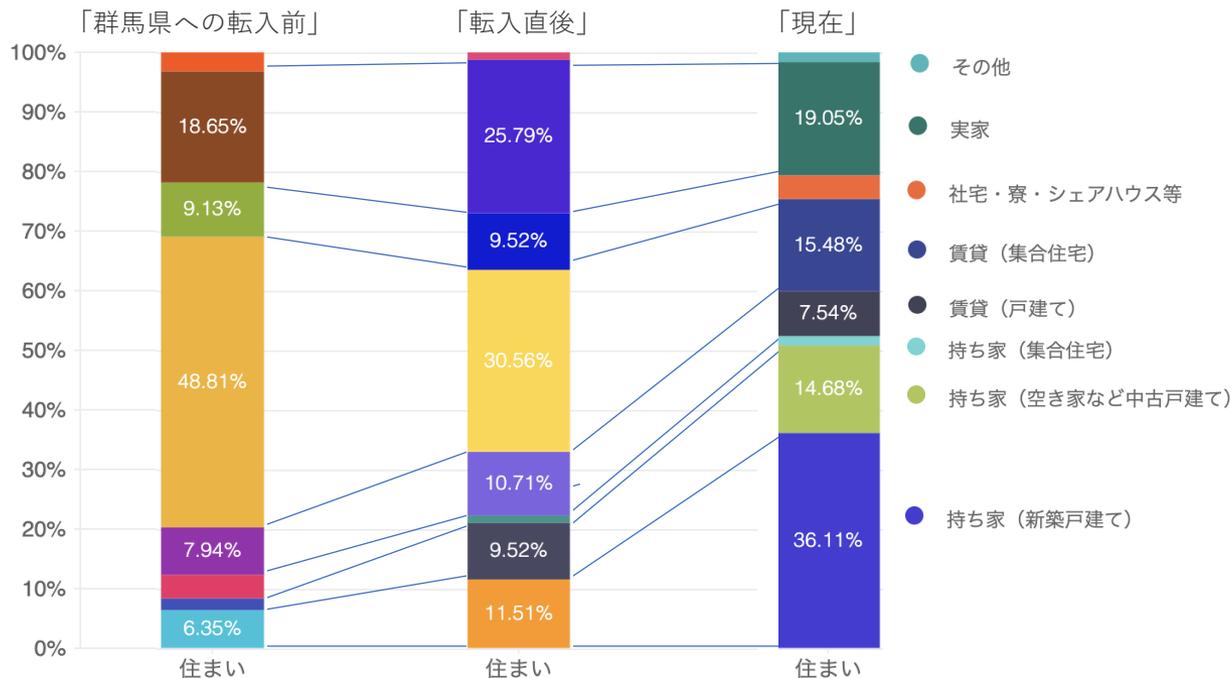




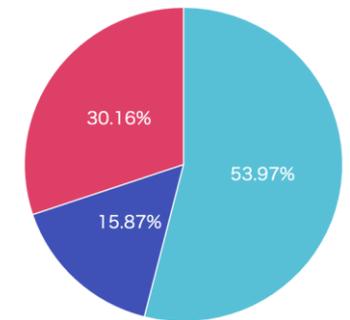
3.【県外移住者】転入前後の住まいの変化

- 転入前の住まいとしては「賃貸（集合住宅）」が48.81%でおよそ半数を占める。県外出身者の実家暮らしと考えられる「実家」が18.65%でつづく。
- 転入直後は、県内出身者については実家に戻るケースが少なくないと思われ「実家」が25.79%と高くなる。その後、現在では19.05%となることから、一定数は実家から出ている様子もみて取れる。
- 全体傾向としては、移住前は持ち家率は1割弱であるのに対して、移住直度で2割、現在では持ち家率が5割を超える。
- 移住前後の住まいの広さの変化に関しては、53.97%が広がったと回答。一方で、3割程度は狭くなったと回答しているが、これは、転入前が実家暮らしで、転入直後が賃貸（集合住宅）や社宅等といったケースによるものと思われる。

住まいの変化（n=252）



転入前後の住まいの広さの変化（n=252）



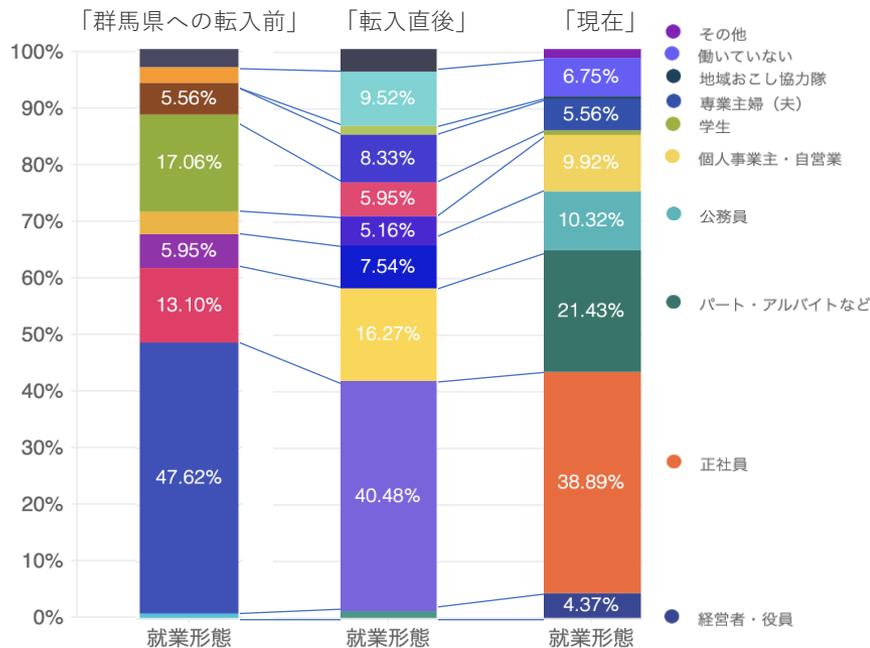
- 転入前と比べると、広がった
- 転入前と、変わらない
- 転入前と比べると、狭くなった



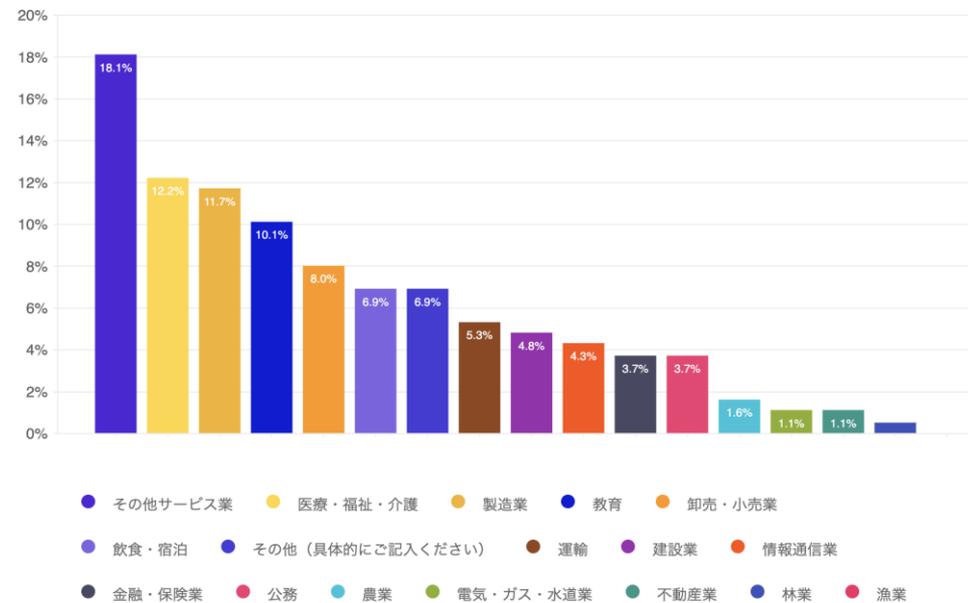
3.【県外移住者】転入前後の就業形態の変化

- 転入前は正社員（47.62%）が最も多く、学生（17.06%）、パートアルバイト等（13.10%）と続く。現在は正社員（38.89%）、パートアルバイト等（21.43%）などが高い。
- 転入前と現在を比較すると、正社員とパートアルバイトの合計が約6割という点は変わらないが、現在「個人事業主・自営業」「経営者・役員」「公務員」と回答する割合は転入前と比べると高くなっている。
- 転入直後が「地域おこし協力隊」の回答も1.59%となっており、転入との関係性も見受けられる。
- 転入直後を見ると「働いていない」が9.52%で他に比べて増加が大きいですが、現在は6.75%となり一定の割合で有職者が再び増える。学生は転入直後から減少が大きく卒業進学を機に移住しているものと思われる。
- 転入前の業種業務としては、全体としてサービス業が多いが、個別には、その他サービス業（18.1%）、医療福祉介護（12.2%）、製造業（11.7%）教育（10.1%）、卸売小売（8.0%）、飲食宿泊（6.9%）などが高い

就業形態の変化（n=252）



転入前の業種・業務内容（n=188）

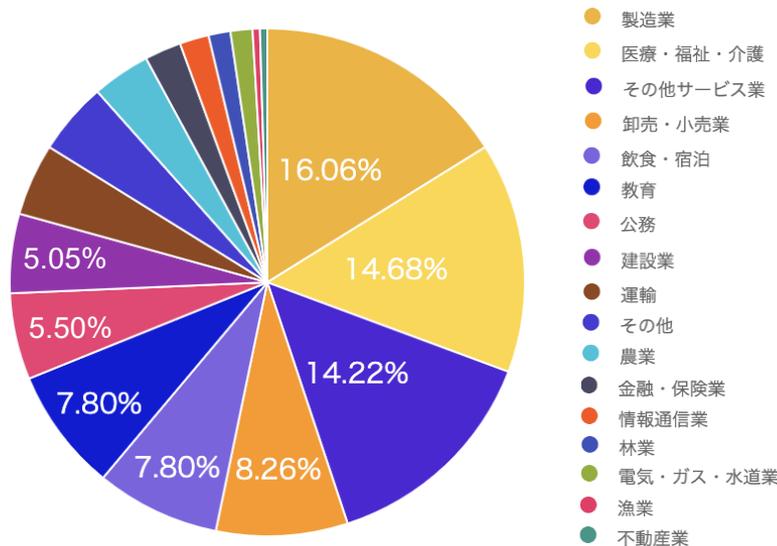




3.【県外移住者】現在の働き方

- 現在の仕事としては、製造業（16.06%）、医療福祉介護（14.68%）、その他サービス業（14.22%）が高く、転入前と比較すると製造業については伸び率が高いが、業種としてこの3業種で4割強を占める点などはあまり変わらない。
- 現在の就業場所については、県内で85% を超えてており、居住地と同じ市町村が48.65%。県内の他市町村が就業場所のものは38.38%。
- リモートワークの状況としては、活用しているのは6%程度で、「常時出勤」と「基本的に通勤」を合わせると85%近い。業種を考えても現状ではリモートワーク主体の働き方は限定的と思われる。

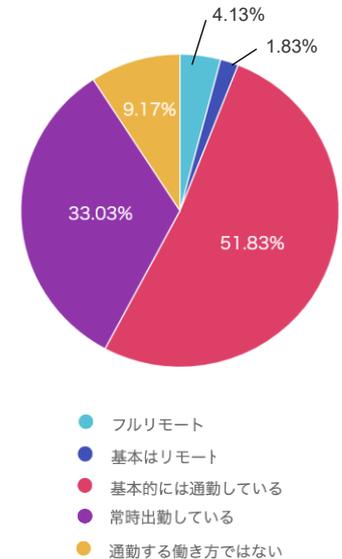
現在の仕事（n=252）



主な就業場所（n=185）



リモートワークの活用状況（n=218）

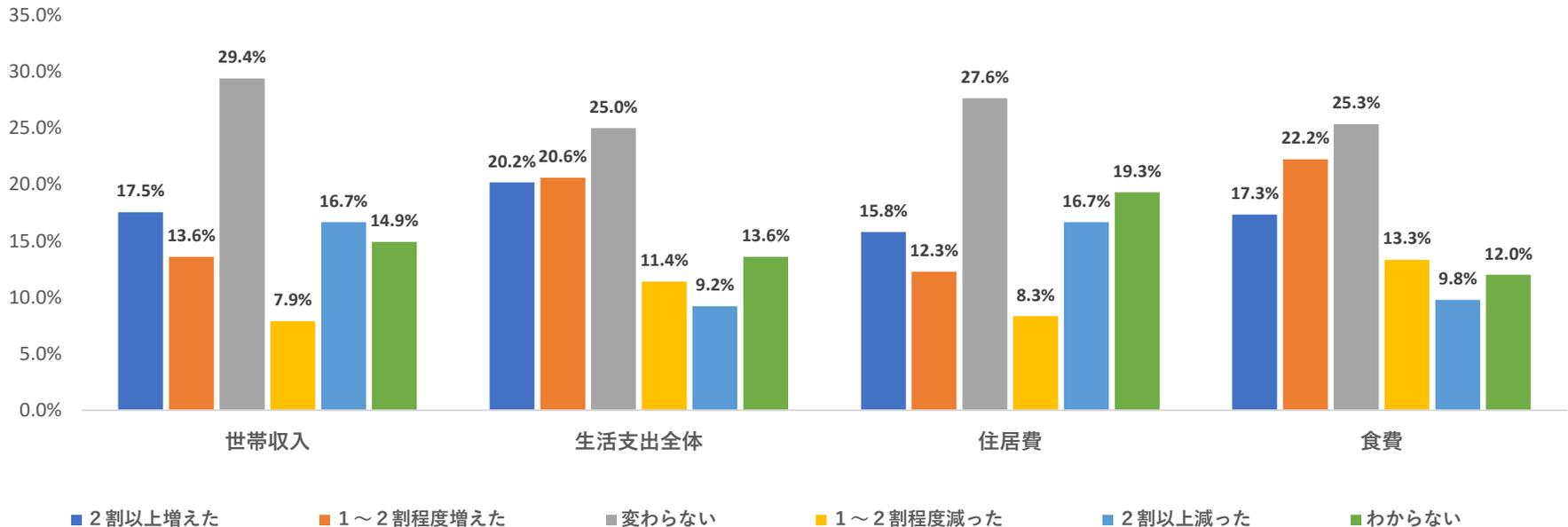




3.【県外移住者】転入に伴うお金（収入支出）の変化

- 転入前後での経済的な変化としては、世帯収入については「変化なし」が29.4%で最も多い。増減をみると、2割以上増えた（17.5%）2割以上減った（16.7%）とほぼ同程度。1～2割程度増えたが同程度減っているよりも5%ほど多い。全体としては世帯収入が増加しているケースが多いものと見受けられるが、学生からの就職や実家へ戻るなどの動きもあるため、単純比較は難しい点は留意したい。
- 支出面では、収入同様に「変化なし」が25.0%で最も多い。収入面に比べると増減の差がはっきりとでており、支出増との回答が、減少したとの回答よりも20%ほど多い結果となった。また、支出の内訳として住居費より食費の方が支出が増えたと回答する割合が高い。これら支出面の変化については、学生から社会人への変化や、単身世帯から2人世帯への変化、賃貸から持ち家への変化なども要因として推察される。

転入に伴う「お金」に関する変化（n=228）

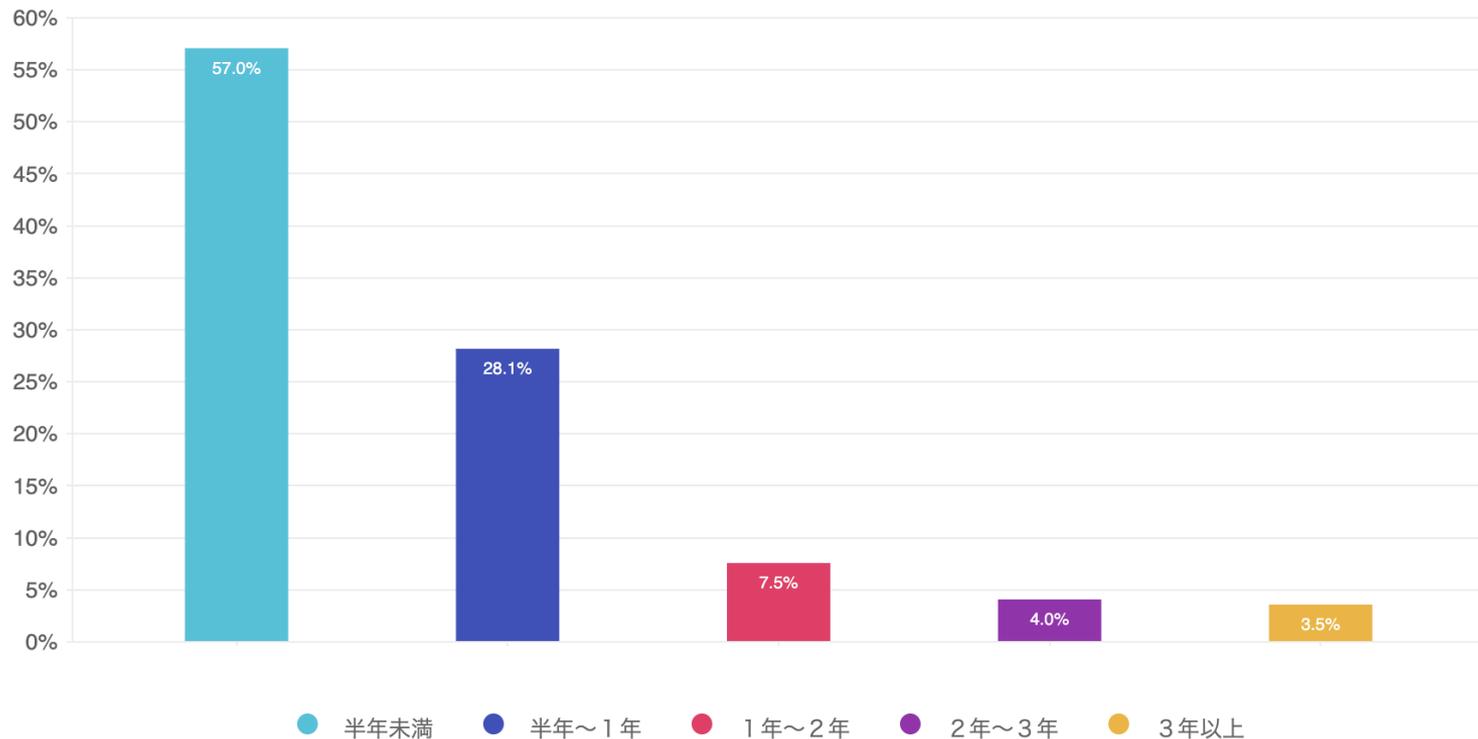




3.【県外移住者】転入までの検討期間

- 転入の検討期間としては、半年未満（57.0%）が最も多い回答となった。半年～1年（28.1%）を含めると1年以内で移住完了しているケースが85%となる。また、1～2年は7.5%となり、ここまで合わせると2年以内で9割を超える。
- UIターンや就業形態などによっても期間の差はあると考えられるものの、全体的には短期で決着するケースが多く、転入検討開始時点から、各検討期間に応じた適時的なサポートや情報提供が期待されるものと考えられる。

転入の検討を始めてから転入完了までの期間（n=228）

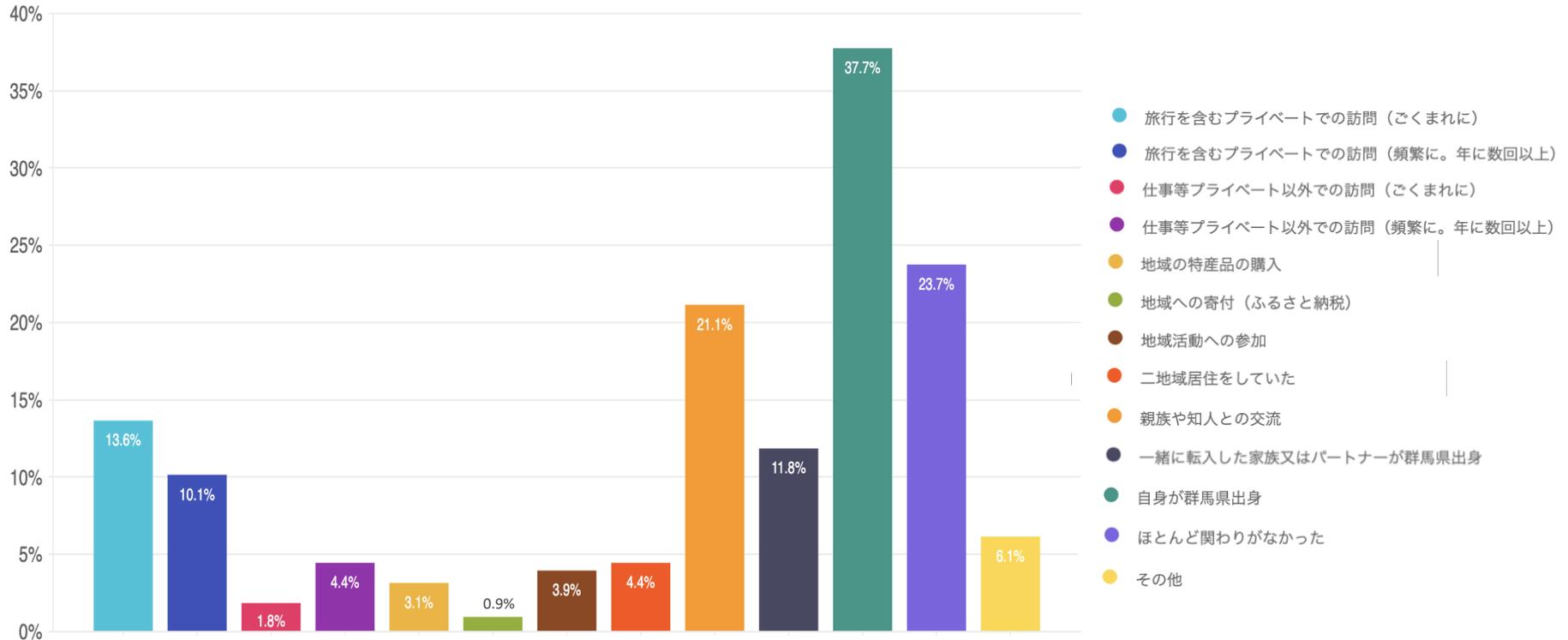




3.【県外移住者】転入前の地域との関わり

- 「親族や知人との交流（21.1%）」や「自身が群馬県出身（37.7%）」「家族またはパートナーが群馬県出身（11.8%）」といった地縁血縁を含めた人的関係性に関する回答の割合が高い。
- プライベートでの往来は頻度を問わず合算すると約25%。また、「二地域居住（4.4%）」「地域活動への参加（3.9%）」などの項目もそれほど多くはないが一定の回答があることが確認できた。また、転入前に現居住地とは「ほとんど関わりがなかった」が23.7%と他に比べて比較的高い結果となった。

群馬県転入前の現居住地（地域）との関わり（n=228）

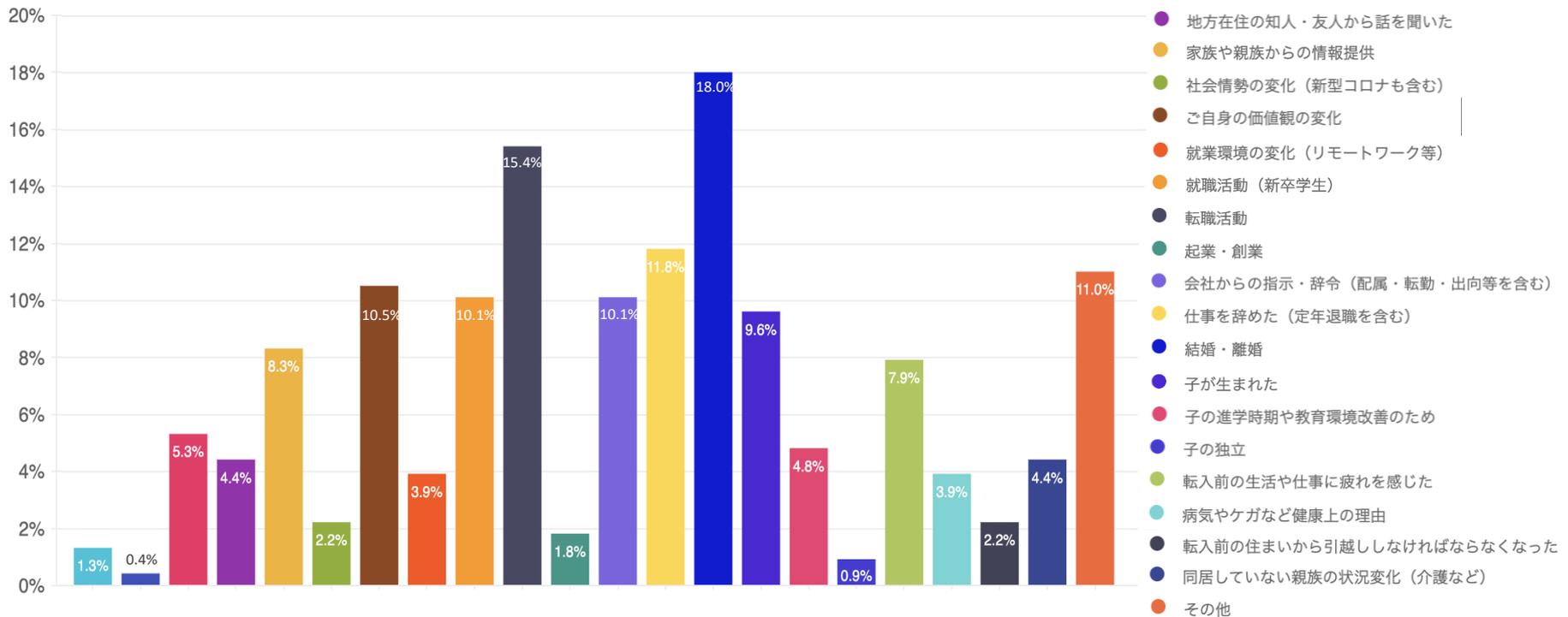




3.【県外移住者】転入を考えたきっかけ

- 「結婚・離婚（18.0%）」が最も多く、「子供が生まれた（9.6%）」「子供の進学・教育（4.8%）」まで含めると約3割。また、「転職活動（15.4%）」「仕事を辞めた（11.8%）」「就活（新卒）10.1%」といった就労関係のきっかけも同程度に多い。一方で「価値観の変化（10.5%）」といった内的変化も、移住のきっかけとして影響があることがみて取れる。
- 「家族親族からの情報（8.3%）」も比較的高く、「知人友人からの話（4.4%）」と合わせて、マスメディアや各種媒体からの間接的な情報以上に、人的関係性のある直接的なやりとりが、きっかけと認識されやすい様子もみて取れる。

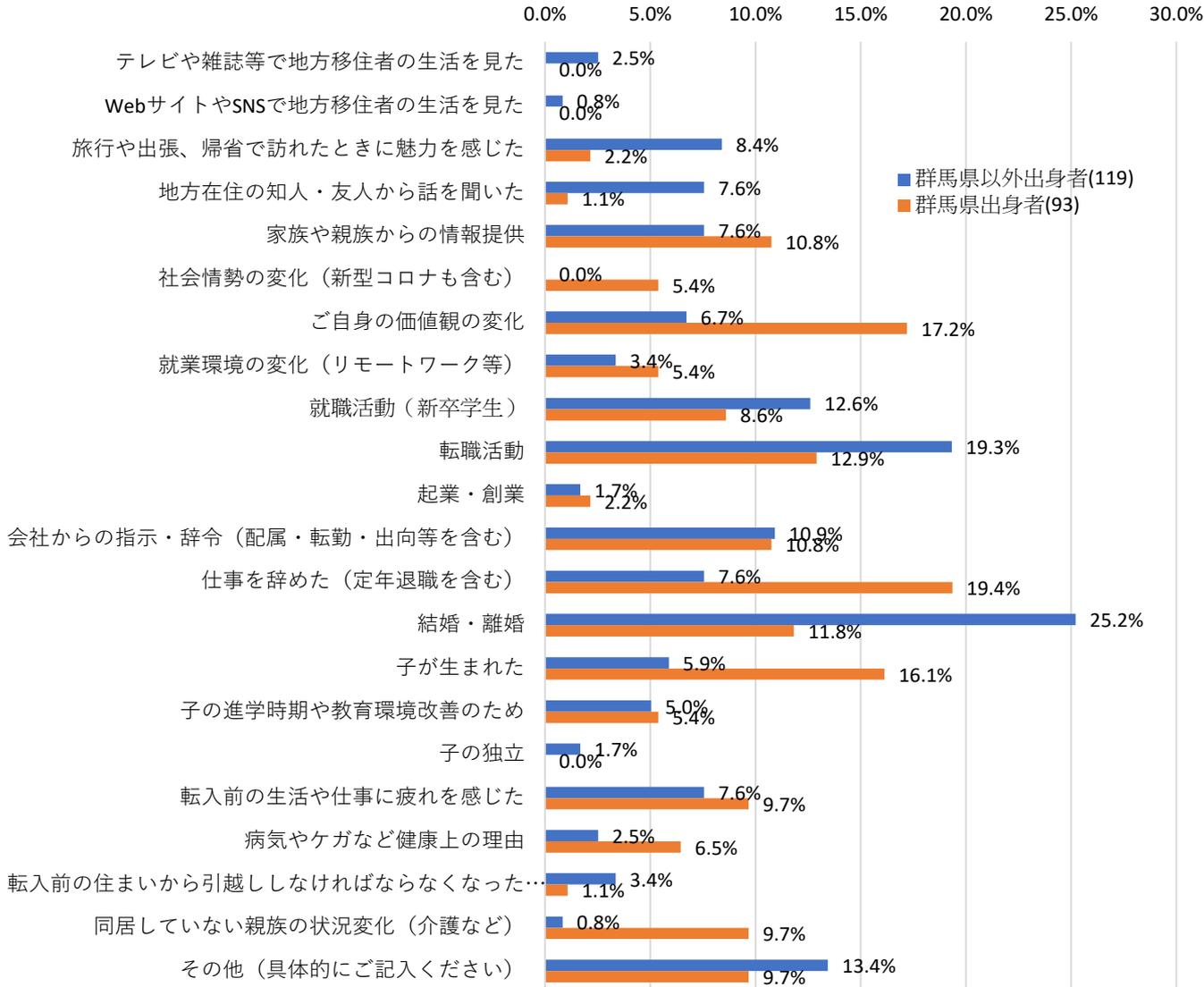
群馬県への転入を考えたきっかけ（n=228）





3.【県外移住者】 転入を考えたきっかけ

群馬県への転入を考えたきっかけ (n=228)



転入を考えるきっかけについて出身地別に整理をしたものを左グラフにまとめた。

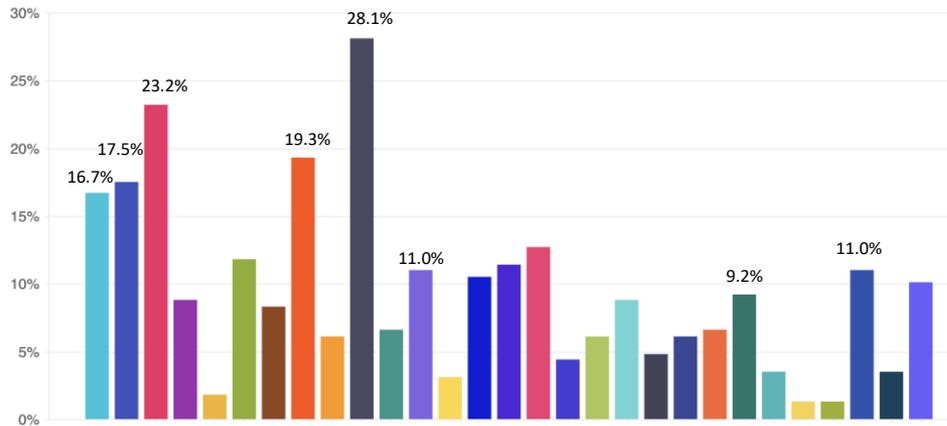
- Iターン者は、メディア経由の情報や来訪時に感じた魅力がきっかけとなっている様子が見受けられる。
- Uターン者は、価値観の変化や社会情勢の変化などの影響がIターン者よりも強いように見受けられる。
- 結婚・離婚がIターン者のきっかけとして大きい一方、出産になるとUターン者の方が影響が大きい。IターンとUターンでライフステージごとの移住検討の傾向に違いがある可能性が考えられる。
- Uターン者については、同居していない家族の状況など、家族関係の要因がきっかけになることも多い様子が推察される。



3.【県外移住者】 転入検討時の優先ポイント

- 実家や親戚の近くで暮らしたい (28.1%) が最も多く、自然環境が良いところで暮らしたい (23.2%)、出身地で暮らしたい (19.3%) と続く。
- 日常の買い物に困らないところ (16.7%)、学校や職場へのアクセスの良いところ (17.5%) といった生活の利便性に関する回答も多い。
- 自然災害が起こりにくいところで暮らしたい (12.7%) という回答もあり、災害の少ないイメージが定着してきているように見受けられる。

群馬県への転入検討時の優先ポイント (n=228) ※複数回答



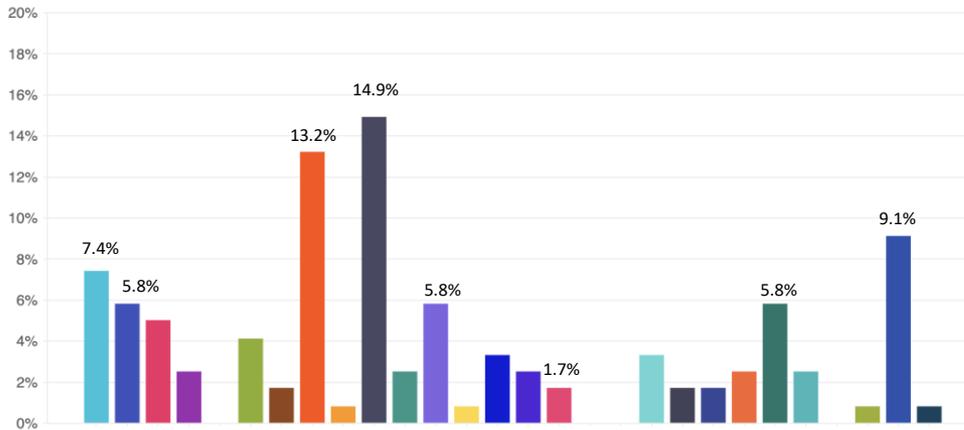
- 16.7% 日常の買い物に困らないところで暮らしたい
- 17.5% 学校や職場へのアクセスの良いところで暮らしたい
- 23.2% 自然環境が良いところで暮らしたい
- 8.8% 環境にやさしい暮らしをしたい
- 1.8% 自給自足の生活を送りたい
- 11.8% 都会の喧騒を離れて静かに暮らしたい/ゆったりと暮らしたい
- 8.3% 都市機能と自然のバランスがとれているところで暮らしたい
- 19.3% ふるさと (出身地) で暮らしたい
- 6.1% ふるさとではないが、なじみのある地域で暮らしたい
- 28.1% 実家や親戚の近くで暮らしたい
- 6.6% 知人・友人など親しい人の近くで暮らしたい
- 11.0% 子育てに適した環境で暮らしたい
- 3.1% 医療・福祉が充実しているところで暮らしたい
- 10.5% 趣味などで自分らしい余暇が過ごしやすいところで暮らしたい
- 11.4% 治安が良いところで暮らしたい
- 12.7% 自然災害が起こりにくいところで暮らしたい
- 4.4% 安くて新鮮な食料が手に入るところで暮らしたい
- 6.1% 水が豊かな (美味しい) ところで暮らしたい
- 8.8% 希望する物件 (土地/住居) に出会えたから
- 4.8% 利用できる土地・住宅を自分や親族等が所有していたから
- 6.1% 都市地域より安くて広い土地や住宅が手に入る (借りられる) から
- 6.6% 自分らしい働き方ができるから
- 9.2% 希望する業種・職種で働けるから
- 3.5% 納得できる収入が確保できるから
- 1.3% 農林水産業など都市地域ではできない仕事がしたいから
- 1.3% 支援制度が充実していたから
- 11.0% 家族の希望を尊重したから
- 3.5% 職場からの指示や推薦があった場所だから
- 10.1% その他



3.【県外移住者】 転入検討時に最も優先されたポイント

- 最も優先したポイントを択一で聞いた結果、「実家や親戚の近くで暮らしたい（14.9%）」が最も多く、「出身地で暮らしたい（13.2%）」と続く。
- 自然環境が良いところで暮らしたい（5.0%）は、優先項目には入るが、最優先とはなっていない模様。同様に、日常の買い物に困らないところ（7.4%）、学校や職場へのアクセスの良いところ（5.8%）といった生活の利便性に関する回答も最優先とはならないことが多いと推察される。
- 一方で、家族の希望を尊重したから（9.1%）などは、最優先としても上位になっており、個々の意向だけではなく、家族間のコミュニケーションも重要な要素と考えられる。

群馬県への転入検討時の最優先ポイント（n=121）※択一

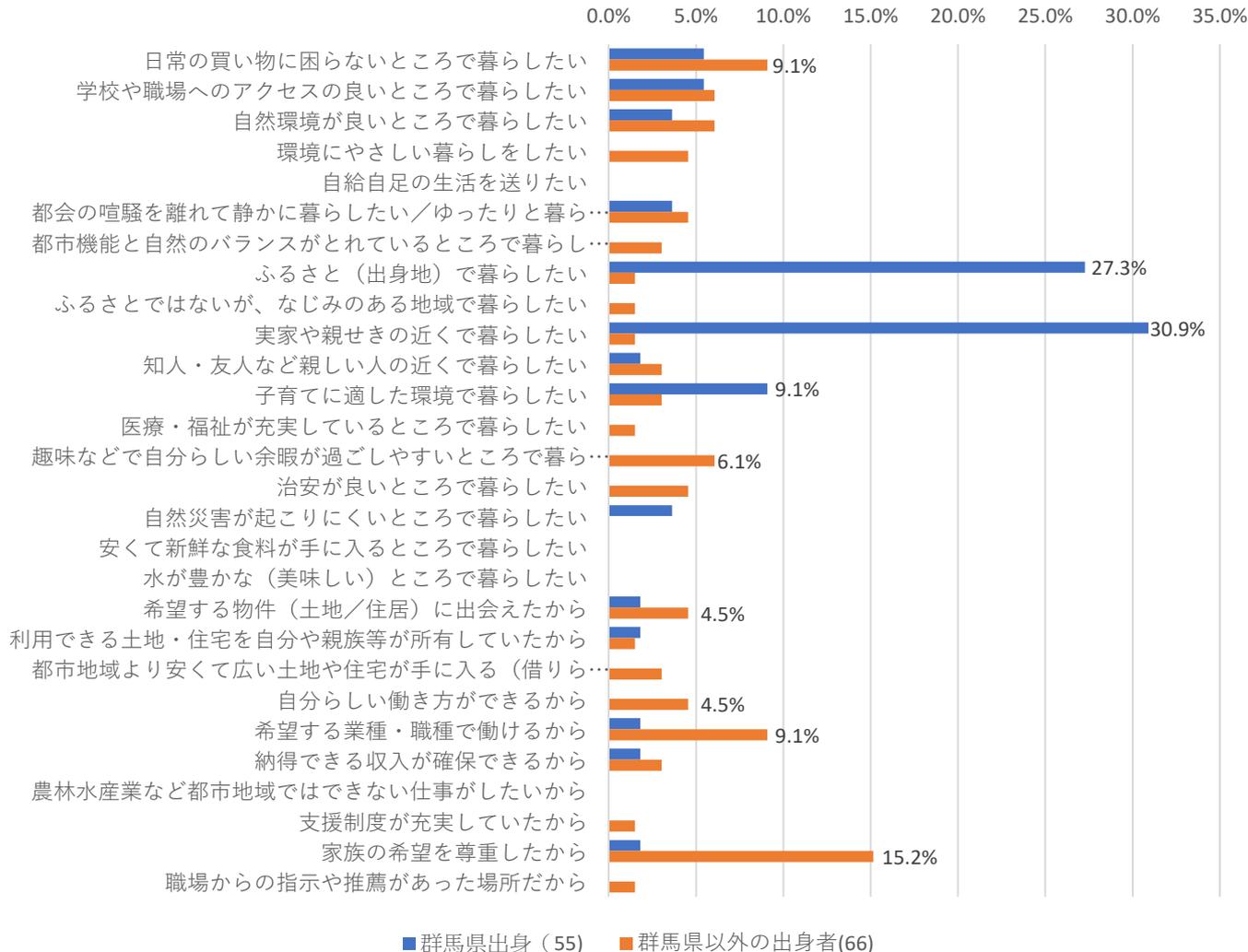


- 7.4% ● 日常の買い物に困らないところで暮らしたい
- 5.8% ● 学校や職場へのアクセスの良いところで暮らしたい
- 5.0% ● 自然環境が良いところで暮らしたい
- 2.5% ● 環境にやさしい暮らしをしたい
- 0.0% ● 自給自足の生活を送りたい
- 4.1% ● 都会の喧騒を離れて静かに暮らしたい/ゆったりと暮らしたい
- 1.7% ● 都市機能と自然のバランスがとれているところ
- 13.2% ● ふるさと（出身地）で暮らしたい
- 0.8% ● ふるさとではないが、なじみのある地域で暮らしたい
- 14.9% ● 実家や親せきの近くで暮らしたい
- 2.5% ● 知人・友人など親しい人の近くで暮らしたい
- 5.8% ● 子育てに適した環境で暮らしたい
- 0.8% ● 医療・福祉が充実しているところ
- 3.3% ● 趣味などで自分らしい余暇が過ごしやすいところ
- 2.5% ● 治安が良いところ
- 1.7% ● 自然災害が起こりにくいところ
- 0.0% ● 安くて新鮮な食料が手に入るところ
- 0.0% ● 水が豊かな（美味しい）ところ
- 3.3% ● 希望する物件（土地/住居）に出会えたから
- 1.7% ● 利用できる土地・住宅を自分や親族等が所有していたから
- 1.7% ● 都市地域より安くて広い土地や住宅が手に入る（借りられる）から
- 2.5% ● 自分らしい働き方ができるから
- 5.8% ● 希望する業種・職種で働けるから
- 2.5% ● 納得できる収入が確保できるから
- 0.0% ● 農林水産業など都市地域ではできない仕事がしたいから
- 0.8% ● 支援制度が充実していたから
- 9.1% ● 家族の希望を尊重したから
- 0.8% ● 職場からの指示や推薦があった場所だから
- 7.4% ● その他



3.【県外移住者】 転入検討時に最も優先されたポイント

群馬県への転入検討時の最優先ポイント (n=121) ※択一



最も優先したポイントをUIターン別のクロスで見ると見え方がやや変わる。

- Uターンは、「実家や親戚の近くで暮らしたい (30.9%)」と「出身地で暮らしたい (27.3%)」が顕著に高い。
- 一方、Iターンについては、「家族の希望を尊重したから (15.2%)」が高い結果となった。
- Uターン/Iターンでさが大きいところとしては、Iターン者については、「希望する業種・職種で働ける (9.1%)」「自分らしい働き方ができる (4.5%)」「趣味など自分らしい余暇が過ごしやすい (6.1%)」といった項目がUターンより高く、「子育て環境」はUターンの関心が高い。
- 物件のコストパフォーマンスや条件についてもIターンの方が重視される傾向にあると思われる。

第3部

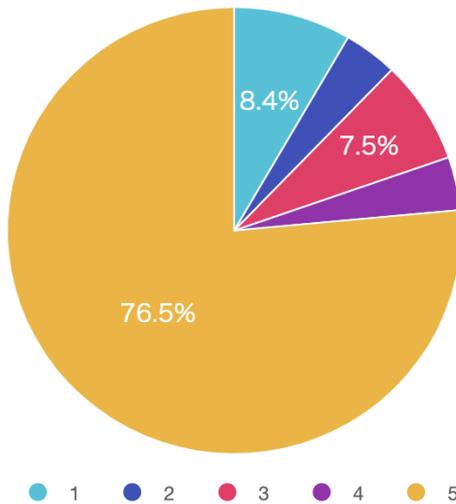
県内移住も含めた 現居住地に関する移住傾向



4. 【県内移住含む移住者】定住意向と暮らしの満足度

- 現居住地に対する定住意向は「5年以上住み続けると思う（76.5%）」が最も多く、平均4.4（中央値5.0）からも定住意向が高いことがわかる。
- 暮らしの満足度についても、総合的には満足が6割強、不満足は1割弱。
- 自然環境については全体よりも満足している割合が高い一方、収入支出や働きがいなどについては満足度がやや低く、不満足の回答が多いことがわかる。

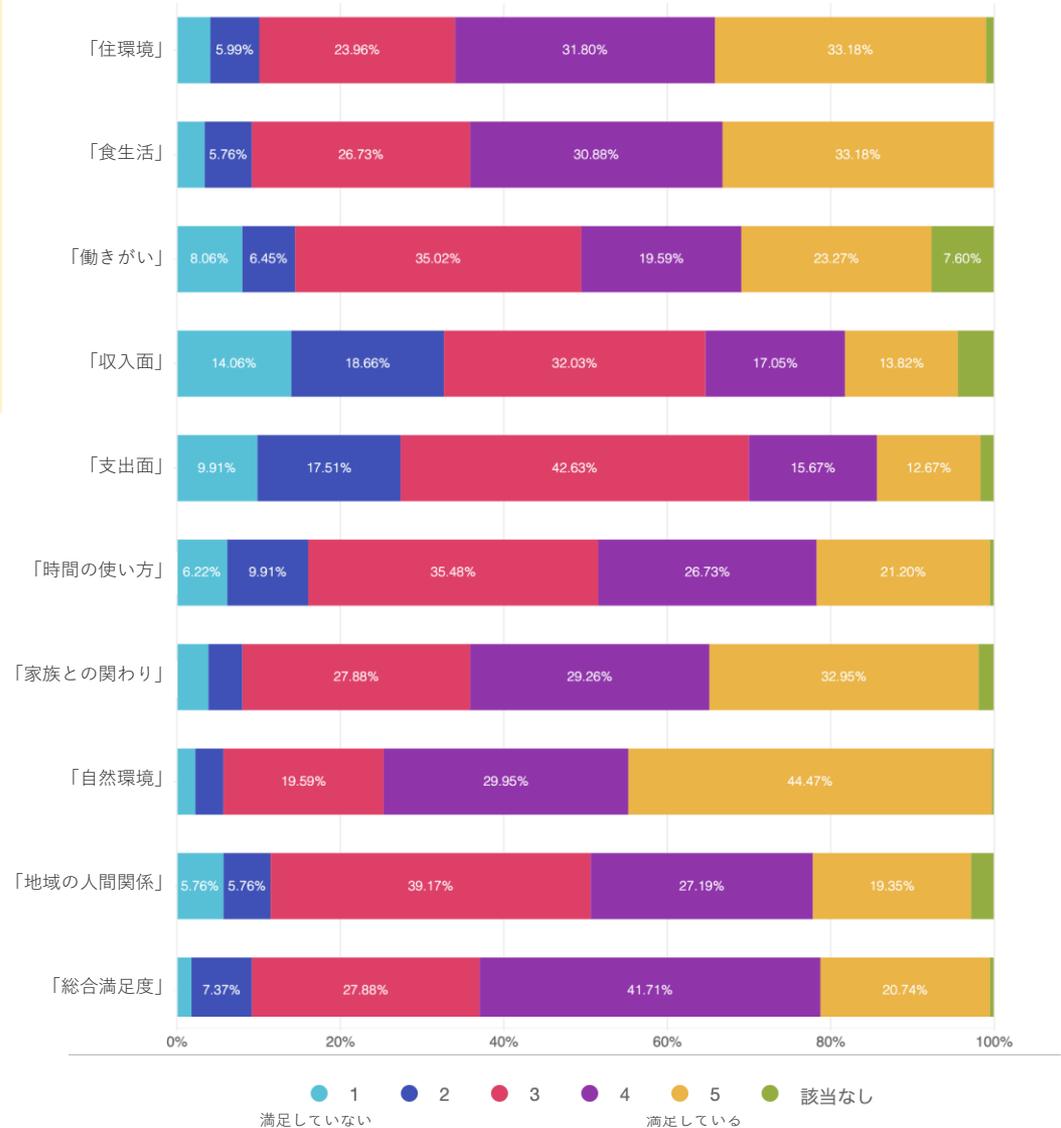
現居住地に対する定住の意向
(n=442)



(5年未満で転出すると思う)

(5年以上住み続けると思う)

現居住地に対する暮らしの満足度 (n=434)

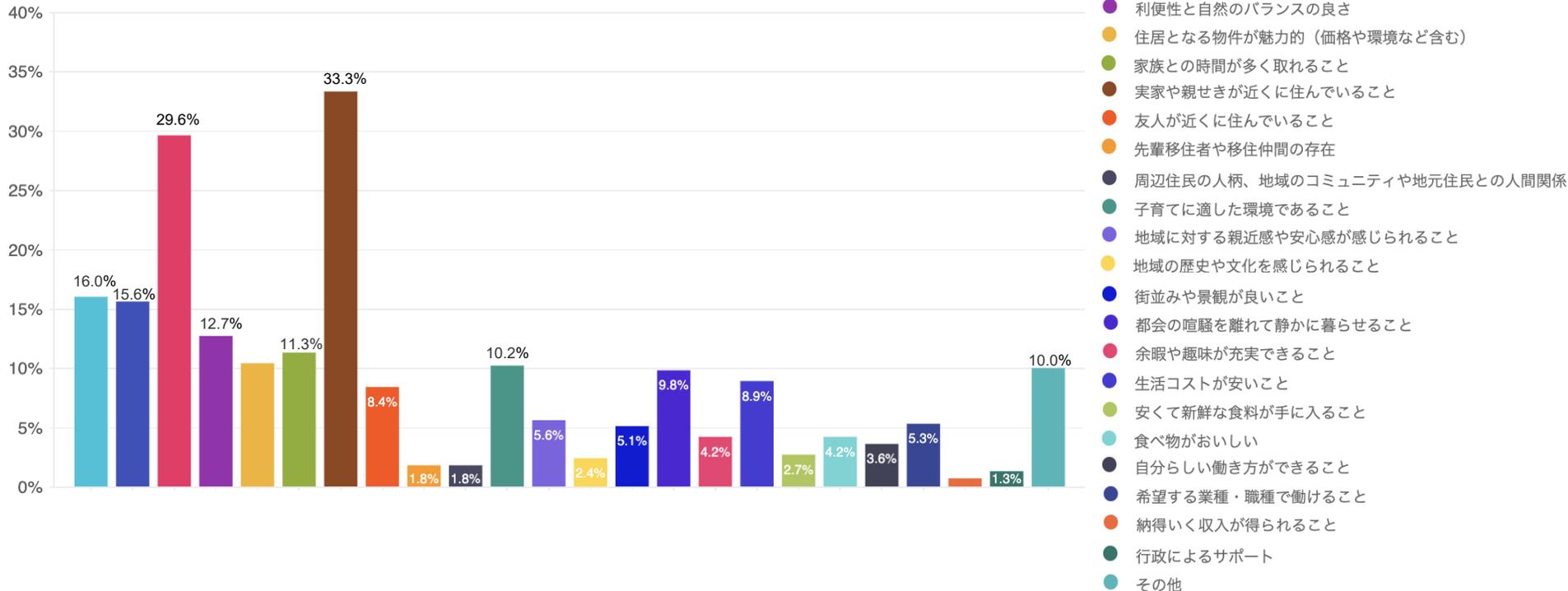




4. 【県内移住含む移住者】 転入検討段階で感じた地域の魅力

- 検討段階（居住前）に感じた現居住地の魅力としては「実家や親戚が近くに住んでいること（33.3%）」が最も高い。次いで「自然環境の良さ（29.6%）」
- 生活利便性（16.0%）、アクセスの良さ（15.6%）、利便性と自然のバランス（12.7%）といった生活のしやすさに関連する項目も上位3つに入る割合が高い。同様に、家族との時間が取れる（11.3%）、子育てに適した環境であること（10.2%）といった家族関連の項目も同程度に選択される。

転入検討段階で感じた、現居住地の魅力（n=450）

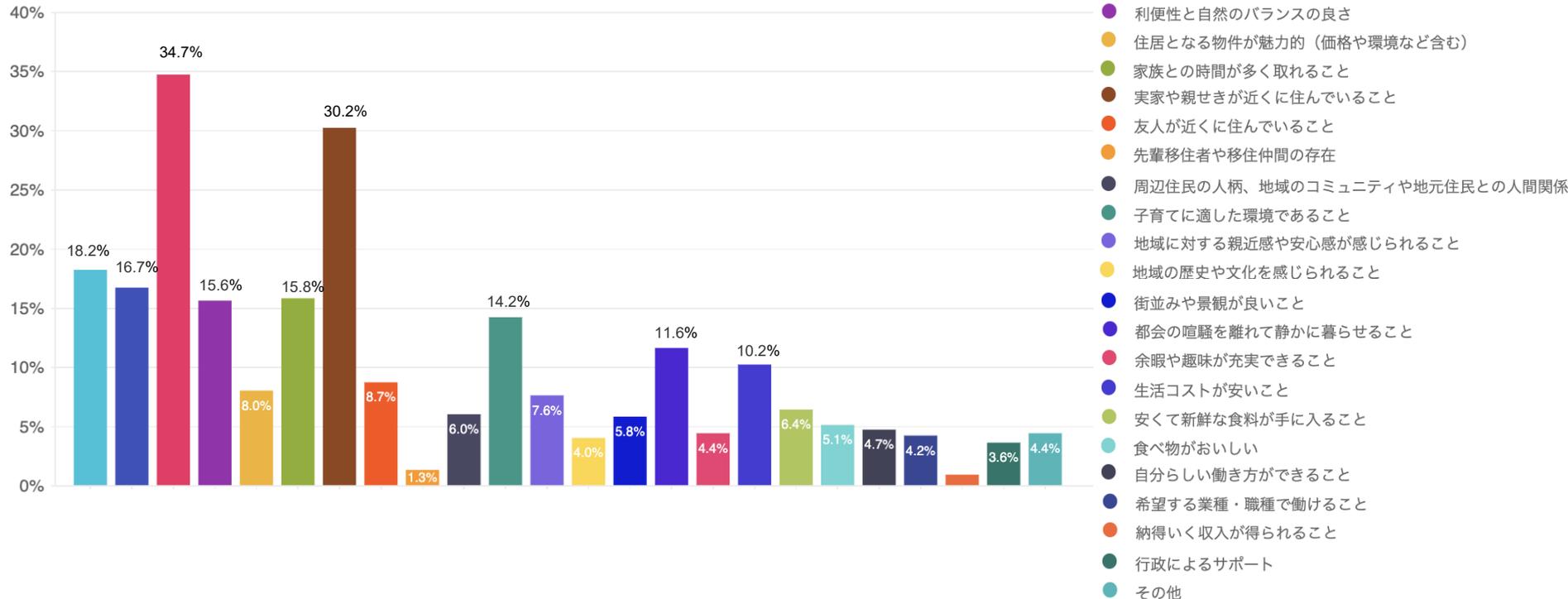




4. 【県内移住含む移住者】住んでみて感じる地域の魅力

- 現居住地の魅力（上位3位までを回収）としては、「自然環境の良さ（34.7%）」と「実家や親戚が近くに住んでいること（30.2%）」が高く30%を超える。生活利便性（18.2%）、アクセスの良さ（16.7%）、利便性と自然のバランス（15.6%）などが高い。同様に、家族との時間が取れる（15.8%）、子育てに適した環境であること（14.2%）といった家族関連の項目も同程度に選択される。
- 上位の項目の中では、「実家や親戚が近くに住んでいること」以外は、総じて検討段階よりも選択される割合が高くなっている。実際に生活する中で魅力として実感していくケースが多いのではないかと推察される。
- 地域コミュニティや安くて新鮮な食材といった項目も伸び率が高く、生活実感を伴って選ばれていると思われる。

実際に住んでみて感じる現居住地の魅力（n=450）

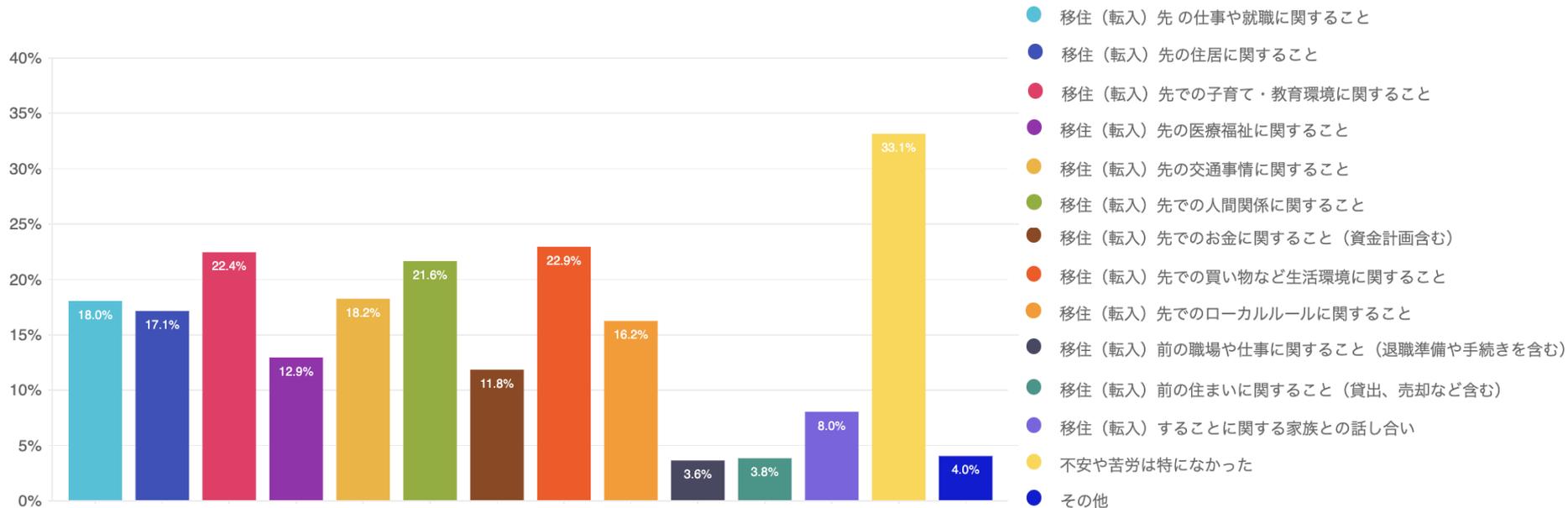




4. 【県内移住含む移住者】 転入準備段階での不安や苦勞

- 転入検討段階の不安や苦勞については「特になかった（33.1%）」が最も高い結果となった。準備段階に至るまでには不安要素はある程度払拭されている可能性なども推察される。
- そのほかの不安や苦勞としては「買い物など生活環境に関すること（22.9%）」、「子育て・教育環境に関すること（22.4%）」「人間関係に関すること（21.6%）」が続く。経済面については比較的低く「お金に関すること（11.8%）」であった。

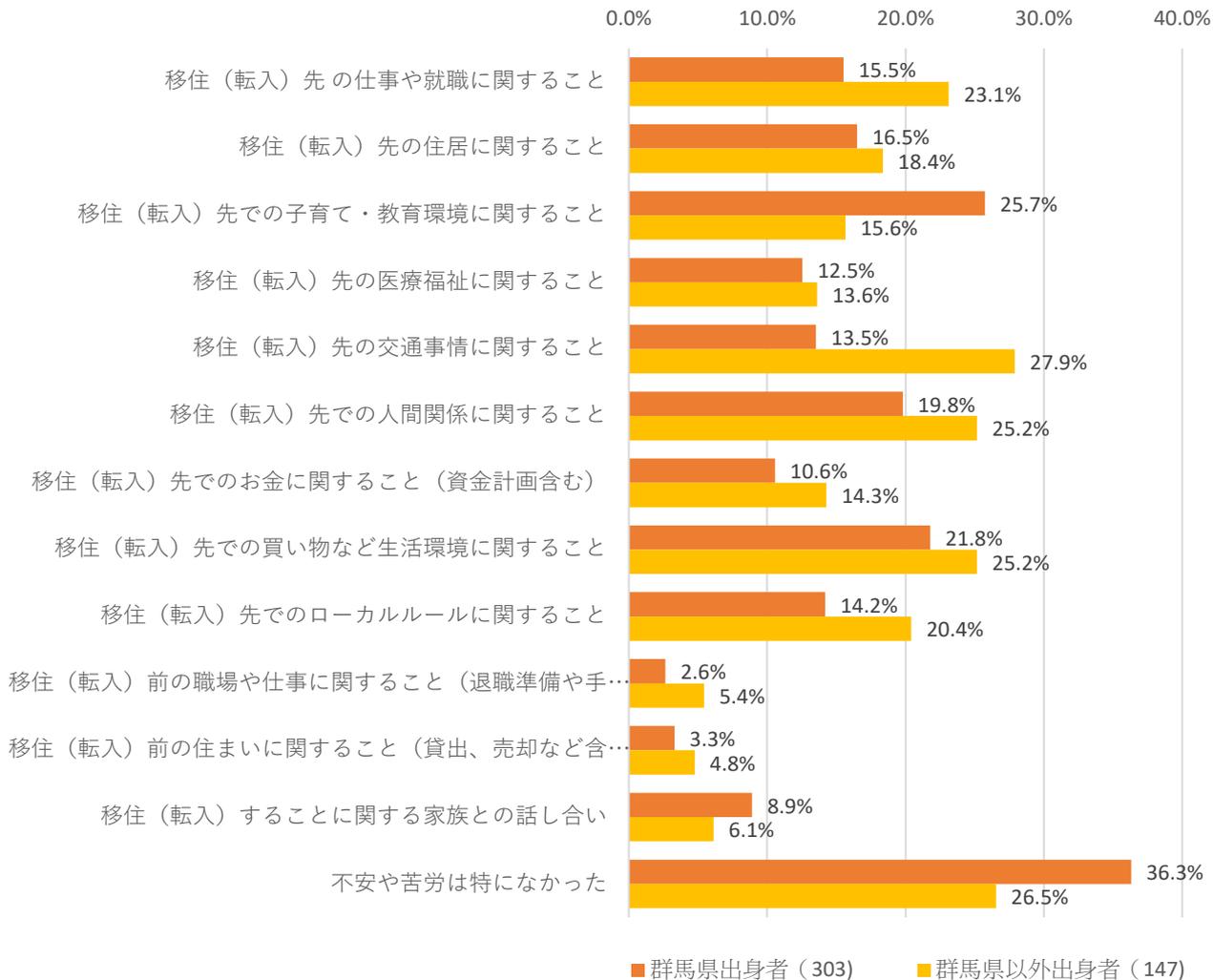
転入準備段階での不安や苦勞（n=450） ※複数選択





4. 【県内移住含む移住者】 転入準備段階での不安や苦勞

転入準備段階での不安や苦勞 (n=450) ※複数選択



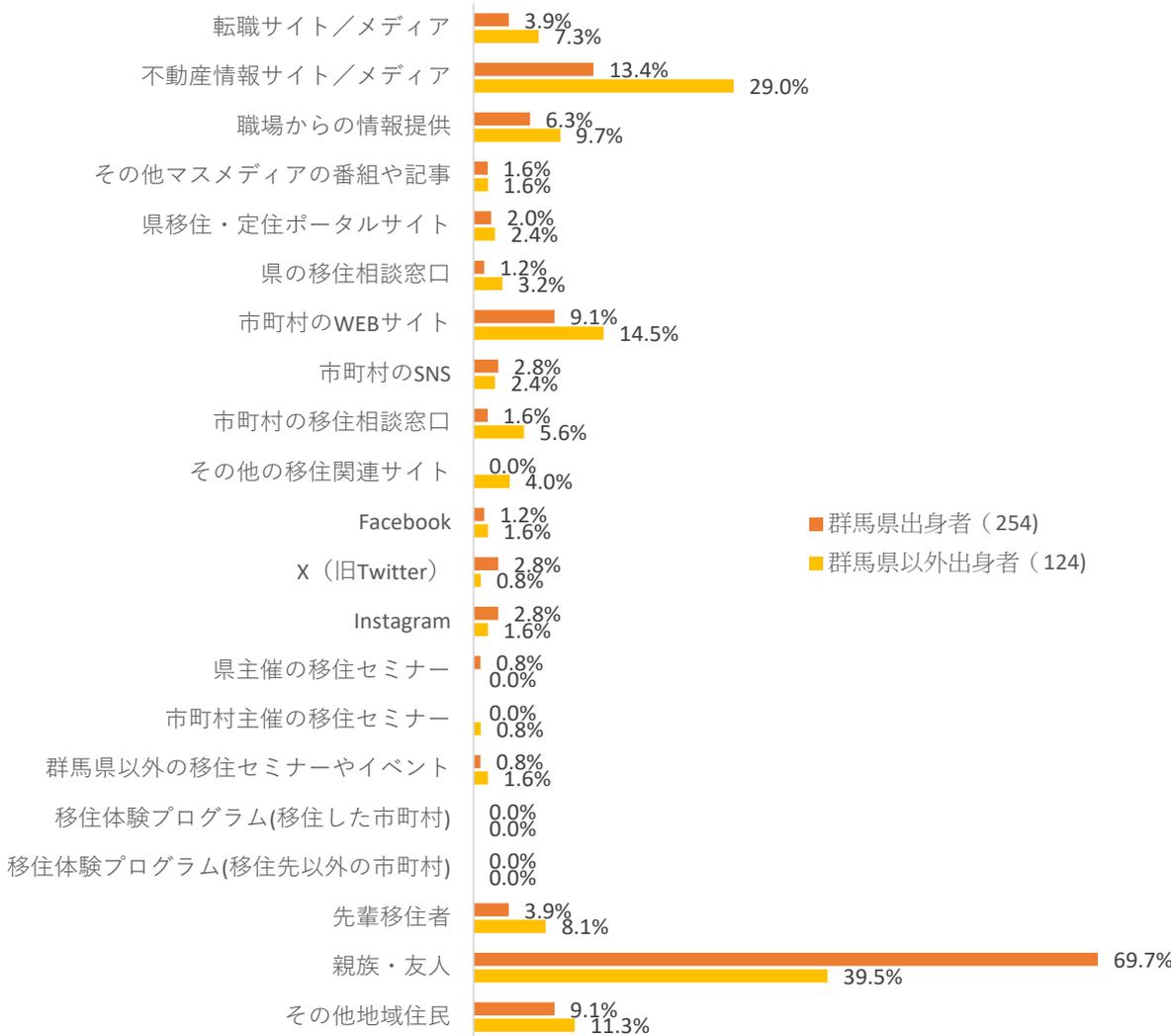
Uターン/Iターン別の転入検討段階での不安や苦勞については以下のような特徴がみとられる。

- Uターン者は全体的にみると、不安や苦勞は感じていないことも多い。その一方で、子育てや教育環境に関する懸念は大きい傾向にある。
- Iターン者については、交通事情、人間関係、仕事や就職、生活環境、地域コミュニティといった値がUターンに比べると高い傾向にあり、暮らしたことがない土地で生活を始めるにあたっては、ある程度不安材料がある模様。
- 一方で、Iターンでも26.5%は特に不安はなかったと回答している。



4. 【県内移住含む移住者】 転入検討段階で活用した情報源やイベント

転入検討段階で活用した情報源やイベント (n=378) ※複数選択



前傾の活用した情報源やイベントについて、出身別（U/Iターン別）でクロス分析した結果が左グラフとなる。

- Uターンについては、親族友人が顕著に高い（69.7%）。このルート強化することはポイントと思われる。
- Iターンにおいても、親族友人が最も高い。先輩移住者やその他地域住民についてはUターン者より値が高く、UターンIターンともに人的つながりのなかでの情報収集は影響が大きいものと思われる。
- Iターンについては、自治体の相談窓口や、移住関連サイト、セミナー・イベントなども一定活用されていることがわかる。
- 不動産情報については、Uターンに比べてIターン者が積極的に活用している様子がみて取れる。Iターン者との接点としては活用の余地があるものと考える。
- SNSの中でも、XとInstagramについてはUターン者の活用が多く、Facebookはおよそ同程度となった。